

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着サービスの意義を理解し、毎年設定する事業所目標に向かってご利用者様を中心にご利用者様本位の介護に努めている。	ホームの理念が作られている。毎年理念に基づき、職員の意見を反映した目標を掲げている。ホーム玄関に掲示され、外部者にも分かりやすくなっている。職員はその年の目標に沿った介護を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りに参加したり近所にある公園散歩時に地域の子供達や農作業をされている地域の方と挨拶をしたり、お話しをして交流している。	併設施設の主催する「納涼祭」などに参加している。また、近くの公園への散歩は地域の方々との自然な交流につながっている。ホーム職員の子供が通う幼稚園園児との交流が行われ入居者の方々に喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ボランティアの方達とのかかわりの中で地域密着型サービス、認知症の理解や接し方等についてお話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議を設け建設的な意見交換を行いサービスの質の向上に活かしている。	定期的な運営推進会議が開催されている。市への報告もされている。会議メンバーからの意見・提案などもあり、ホームよりのお願いや依頼事項なども会議の時に取り上げられ、着実に成果として結びついている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは相談できる関係を築いている。また、納涼祭等の行事に参加して頂くようお願いし、運営推進会議以外の行き来する機会を設けている。	市の職員が納涼祭に参加をしている。地域密着型についての入居者からの相談や介護保険の更新手続き等、市の職員とは連絡を常に取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しない事の意味を十分に理解し身体拘束は行っていない。ご利用者が外出しそうな時はそっと声掛けしたり、一緒についていく等安全面に配慮している。	職員向けの「身体拘束をしないための」研修が行われている。職員は拘束をすることの弊害に関して理解をしている。居室の鍵はかけていない。玄関の施錠については時間帯で行っているが、鍵をかけない状態を持続できるように話し合いを持っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	行政からのパンフレットでの周知。また、社会福祉主事資格者がおり社会福祉の幅広い知識を活かして虐待防止に努めている。		

グループホームかじか庵・北棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設施設での研修等に参加して勉強する機会を設けている。また、社会福祉主事資格者がおり社会福祉の幅広い知識を活かして権利擁護に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書、重要事項説明書の内容をご利用者、ご家族に十分説明している。また、施設内にも掲示してある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のメンバーにご利用者、ご家族の代表がそれぞれ1名づつお意見をお願いしている。また、家族会においても意見を頂けるよう配慮し運営に反映している。	職員はホームを訪問するご家族に声掛けをし、話をしよう心がけている。家族会が開かれており、意見・要望を聞いている。「かじか庵」だよりが年数回発行され、入居者の近況や行事を伝えている。外部よりの意見を頂くため玄関には意見箱が設置されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週行われる合同の主任会議において管理者に意見や提案をしている。	昼食後の午後の時間帯に行われるミニカンファレンスで意見交換をしている。入居者への担当制を実施しており、ケアプランなどに職員の意見を反映している。職員同士の意見を聞いて自分の気づかないことなどが勉強となり、お互いに刺激を受けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行ったり、職員同士の人間関係を把握し、職員の疲労やストレスに気を配っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症研修等に積極的に参加する機会を設けている。また、併設施設での研修、勉強会にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域のグループホームの集いに参加して情報交換、交流を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で状態を把握する他、ご本人との面談に時間を充分とり思いや訴えをよく聴くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談、申し込み、事前面接、入所契約の流れの中でご家族との信頼関係を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受ける中で必要としていることを見極め、他のサービスや社会資源の利用を含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという尊敬の気持ちを持ち、学んだり時には助け合い支え合う関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日々の生活の様子の中で嬉しかった事、楽しかった事、困った事等お伝えし一緒に共有してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方(友人、親戚)が自由に面会できる、自由に外出して頂ける態勢を整えている。	お友達が立ち寄ってくれたり、一泊の同級会へ参加する方など、入居前のつながりが継続されている。職員も入居者のおかれた状況を把握し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者お一人お一人の性格を理解しご利用者同士の小さなトラブル等にも気付き対応するように努めている。		

グループホームかじか庵・北棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)終了後もこちらでの生活の様子等情報提供できる態勢を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者お一人お一人の訴えを聴きかじか庵での生活全般においてご利用者本位の介護に努めている。	入居時に今までの生活状況を本人・家族より聞き取り記録に残している。どんな時でも入居者を主体にゆっくりとした対応で、相手の気持ちを押し量るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時、契約時等において入所前の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者お一人お一人の現状を日々把握し、小さな変化にも気を配るよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者だけでなく、職員からの意見を参考にご家族の方にも意見をお聞きしながら作成している。	入居時に計画作成担当者が本人・家族よりの希望を聞き暫定ケアプランを作成し、1ヶ月経過したところで職員の意見を聞き、継続するか修正するかを検討している。三ヶ月に1回の定期的な見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別のケース記録に記入し、介護計画の見直しに活かすよう努めている。又、連絡ノートを使用し職員間の情報共有に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者、ご家族の状況に配慮し受診の送迎、ご面会時のご家族への昼食の提供等、柔軟に対応している。		

グループホームかじか庵・北棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月数回の外出支援(スーパーで買物、行楽外出)で季節を感じていただいたり、今までの暮らしの延長を大切に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診についてはご家族対応となっている。また、ご家族の事情や意向、必要性に応じて受診の支援を行っている。	内科・歯科の協力医はあるが、原則として入居前のかかりつけ医の継続をお願いしている。入居者の希望で近所の医院に変更し往診をお願いしている場合もある。歯科衛生士によるアドバイスが月1回あり口腔ケアも行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師と医療連携体制(毎週1回の健康観察)がとれており緊急時の対応ができる体制が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	ご利用者が入院した場合、安心して退院できるように入院先との情報交換や相談できる体制作りから日頃から努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び看取りに関する指針を整えている。また、入所契約時に事業所でできることを十分に説明している。	「重度化および看取りの指針」があり、入居時に家族への説明が行われている。一週間に1回「健康管理の日」には併設施設医師の健康観察が行われ、入居者の状態に応じた適切な医療が提供されている。夜間帯の急変等については併設老健職員の協力体制が整備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがある。また、職員会議、ミーティング等の場でご利用者の急変や事故発生時の対応確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年数回の併設施設での防災、避難訓練に参加し災害時に備えている。またご利用者全員の非常食を3日分備蓄している。	併設施設との共同で、年三回消防訓練を行っている。火災報知器が各居室やリビング等に取り付けられている。食糧は3日分の備蓄があり万が一に備えている。スプリンクラーの設置も検討している。	地震・台風など自然災害に対する対策も取り入れられることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者のプライバシーを損ねる事のないよう意識し徹底している。個人情報の取り扱いについても社会福祉法人 孝明 苦情解決規程に沿って慎重に対応している。	日常生活で不適切な言葉遣いや態度があったときにはその都度注意をするように心がけている。入浴時、男性職員の介助を望まない方には希望通りに女性職員の介助で対応している。個人情報の取扱いについては玄関に張り出され、周知徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々のご利用者の状態に合わせた働きかけを行いご利用者本位の支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者が今何をしたいのか、何を考えているのか、ご利用者の気持ちになり支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗顔、整髪に始まり、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理美容に関しては施設で提供できる体制も整えている。又、誕生月に希望があればボランティアによる化粧もして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんで頂けるように食堂の雰囲気作りや気の合うご利用者同士の席の並びに配慮している。	同じテーブルの入居者の方に「ここは美味しいんですよ。栄養もちゃんと考えてくれるから。」と笑顔で勧められた。時間をかけて沢山の種類のおかずを完食されていた。調査日の昼食を「食べたくない」という入居者に、急遽、別メニューが用意されると「悪いなあ、ありがとう」と何度もいいとも嬉しそうに頂いていた。職員も同じものを一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のたてた献立に沿って食事の提供を行っている。また、体調不良等栄養摂取が困難な状態時は管理栄養士、看護に相談できる体制が整っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導のもとに、毎食後ご利用者の状態に応じて口腔ケアを行っている。		

グループホームかじか庵・北棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体の清潔を保つ為にも排泄支援は重要な事ととらえ、その人にあつた排泄支援を常に注意しながら行っている。	多くの方が自立されている。不安のためリハビリパンツを使用する方もいるが、職員のさりげないトイレ誘導が行われていた。夜間の歩行に不安がある方にはポータブルトイレが居室に置かれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりのご利用者について排便の周期を周知して排便表と照らし合わせ確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	月曜日から金曜日に交代で入浴して頂いている。また、体調やご利用者の気分十分に配慮して足湯等工夫し入浴を楽しんで頂けるよう努めている。	お風呂を嫌う方はいないと伺つた。浴室の窓の外が箱庭になっており、気持ちがゆったりとせいたくな気分させてくれる。入居者と介助する職員との一対一で話しながらの入浴が楽しい時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の日課はあるがご利用者のその日の状態や気分を感じ取り可能な範囲で自由に過ごして頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用については、ご家族から受診後に説明を受けている。また、分からない点等については健康観察時に看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者一人ひとりが楽しみや役割を持つよう支援している。清掃、食器拭き、洗濯物たたみ、洗濯物干し等ご利用者の状態に応じて行つて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	隣にあるかじか公園への散歩、買物外出、行楽外出を毎月数回行ない日常的な外出支援に努めている。	週に1度の買物外出や月に1回の行事・ドライブを計画し、外出支援に力を入れている。買物外出時にはスーパーで食材やおやつ用のお菓子などを職員と共にカートを押しながら買ってくる。隣接の公園への散歩は日常的に行われている。	

グループホームかじか庵・北棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に相談して、ご利用者の状態に応じて希望に沿えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、ご兄弟、ご友人からの電話に対してステーション内にて受けて頂き、プライバシーの保護にも気を付けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各所に季節の花々を飾り、壁にはご利用者が共同で作られた貼り絵、家族会、納涼祭等の写真を掲示し家庭的な雰囲気作りの配慮をしている。	食堂やリビング、畳のコーナーと入居者の希望する場所で自由に過ごしている。高窓からさしこむ陽光や窓から見える自然から季節の移り変わりを感じ気持ちが穏やかになる。行事の写真や日本人形、庭で取れた花などが共有スペースに飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には大きめのソファを置きゆつくりとくつろいで頂くことができる。また、畳の間で足をのばして休んで頂ける等居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具をお持ち頂いたり、ご家族の写真や花を飾られ居心地よく過ごせる空間作りの工夫をしている。	広い居室には洗面台が備え付けられている。収納場所も造りつけとなっているので、家族の方が来ても泊まれるような十分なスペースがとられている。入居者本人が書いた書道作品が貼られていたり、写真好きな方には家族より沢山の写真が差し入れられており、その人らしい居室づくりがされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はご利用者お一人お一人の残存機能を活かせる様に工夫しており、また中庭に色とりどりの花や野菜が植えてあり、気軽に活動できる環境づくりをしている。		